

# 滋賀試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会  
滋賀試験地 主任  
堀口 清博

## はじめに

滋賀県では県土の約6分の1を占める日本最大の湖「琵琶湖」が中央に位置し、大小約460本の河川が注ぎ込んでいる。一方、県土の半分以上が山地で、周囲を伊吹、鈴鹿、比叡、比良などの山々が取り囲み、近江盆地を形成している。また、琵琶湖を中心に湖北、湖東、湖南、湖西の4つの地域に分かれており、気象条件も異なる。試験地のある長浜市高月町は冬期の降雪量が多い湖北地域で(図-1)、気候は日本海側気候である。近年は暖冬傾向で降雪量が少ないものの、気象観測地点のある長浜市北部の余呉町柳ヶ瀬では毎年80cm前後の降雪がある。

つぎに本県の農業については、地形や気候が稲作に適していることから水田率が高く、米を中心に麦、大豆等を組み合わせた水田農業が主体である。また、農業用水は農地の約4割が琵琶湖を水源としている。試験地のある湖北地域北部の農業用水は琵琶湖の水を標高差50mの余呉湖にポンプアップし、そこから河川に流して頭首工より取水して利用している(図-2)。

## 試験地の沿革

昭和57年に県南部の甲賀市に設置されてから私で6代目になる。滋賀県では担当者の居住地に試験地を設置してきたことから、担当者によって土壌条件や気象条件が異なる。滋賀県の場合、県南部に開設した試験地は徐々に北上し、現在は県北部の湖北地域にある。

## 試験地の概要

試験地までの経路は、車を利用した場合は北陸自動車道木之本ICから南に5分、小谷城スマートICからは北西に10分、電車を利用した場合はJR米原駅でJR北陸本線に乗り換え「高月駅」で下車し、タクシーで5分のところにある。新幹線の場合はJR米原駅からレンタカー利用が便利である。

試験圃場は32a(14aと18aの2筆)で、道路を隔てて接している。事務所から圃場までの距離は約100m、車の場合、圃場横にある集落の農機具格納庫前に駐車して見学ができる。試験は2筆の圃場(図-3)で移植試験(早期)と直播試験を行っている。移植と直播の圃場は受託薬剤数によつ



図-1 滋賀試験地の試験場所



図-2 余呉湖補給揚水場(琵琶湖側)から余呉湖へポンプアップ



図-3 農機具格納庫から見た試験圃場



図-4 直播試験の播種作業



図-5 播種後の足場板設置（横側通路）



図-6 移植試験の試験枠設置

て使い分けている。

試験地を継承して7年目になるが、集落の大規模農家の支援や協力がなければ試験地を継承することはなかったと思う。開設準備の段階では、事務所から1 km 程離れた農地を試験圃場にしようと考えていたが、大規模農家が事務所に近い方が試験をしやすいと農地を交換してくれたことは、大変ありがたく感謝している。また、資材等を保管する倉庫の借用、苗の供給、移植・播種作業のオペレーター等でも常にお世話になっている。移植機は大規模農家の8条施肥田植機、直播機はJA北びわこ湛直機械利用組合の8条湛水土中点播機を利用している（図-4）。なお、2025年度からは植調山口阿東試験地で使用していた6条湛水土中直播機が滋賀試験地に所管換えとなり、降雨等で播種日を変更しなければならない場合でも調整が容易になる。

つぎに、試験区の設置（図-5、図-6）や調査、圃場管理などは、集落を中心に7名のパート職員に手伝ってもらっている。開設当初からのメンバーは5名で作業の段取りをはじめ各種調査にも精通し、作業の改善なども積極的に行ってくれる。例えば中腰で行う生育調査は腰に負担がかかることから生育調査でも使える1本足のイスを作成したり、撤

去後の試験枠を用水路やデッキブラシで洗っていたが、少しでも負担を軽減しようと波板洗機を作成するなどできることは率先して行ってくれる。一方、パート職員も高齢化で開設当初からの4名は引退しており、新たなパート職員の確保が課題である。そのため、試験枠の設置や撤去など人員を要する作業は長浜市シルバー人材センターに依頼している。

試験で使用する検定草種はノビエ、ホタルイ、タマガヤツリ、コナギ、アゼナ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリである。試験枠はイレクター方式を採用して6年目になる。1年目は前任者のあぜ波板を金具で組み合わせて作る方式であったが、2年目からは反復数が3反復に増えることや、新型コロナの影響で人員確保が困難になるなど、より簡易に設置できる方式を採用する必要がある。ちょうどその頃、メーカーの方からイレクター方式の情報を得ることができ、その方式を採用している兵庫試験地と近中四研究センターを視察して、イレクター枠の作成や使い方を教えてもらった。この方法は初めての人でも直ぐに設置できることや設置の時間も短く、漏水対策にもつながるなど利点は多い。



図-7 山岡孫吉氏の言葉（母校古保利小学校）

## さいごに

湖北地域は観音信仰の盛んな地域である。旧高月町は国宝十一面観音立像をはじめとする数多くの観音像があり、観音の里と呼ばれている。また、江戸時代に対馬藩（現長崎県対馬市）に仕えた儒学者雨森芳洲の出身地であり、彼は対馬藩の内政・外交・藩主の御用人などをつとめ、特に外交の基本はまごころの交わりであると「誠信の交わり」を説き、朝鮮通信使を通じて善隣外交を実践した国際人であった。

また、世界発の小型ディーゼルエンジンを開発するなど多くの業績を残したヤンマーの創業者山岡孫吉の出身地でもある。旧高月町内の4小学校には山岡氏が残した言葉「美しき世界は感謝の心から」という言葉が石碑として残っている（図-7）。「人生というものは、運・不運に左右される

ことも大きいですが、誠実さと感謝の心を失わないで努力していれば良き協力者を得て、道も開け、人からも感謝され、美しい世界がおのずから展開してくるのではないだろうか」という心境を言葉にされたものである。私もこの言葉にあるように、試験地の開設からその後の運営に至るまで多くの方々に支援してもらってきた。そうしたことがなければ試験地を継承することも続けていくこともできなかったと思う。この場を借りてお世話になった皆様に感謝申し上げる。

## 引用文献

- ・滋賀県ホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp>
- ・農林水産省ホームページ <https://www.maff.go.jp>
- ・水土里ネット湖北ホームページ <https://midorinet-kohoku.or.jp>
- ・奥びわ湖観光協会パンフレット
- ・私の履歴書（山岡孫吉著）